



日常から顔が見える関係づくり ～北海道胆振東部地震の教訓～

災害は、いつどこで発生するかわからないものです。災害時には、災害ボランティアセンターや行政機関、或いは外部から支援に来るボランティア団体など、様々な人たちが被害にあった地域の復旧・復興のために尽力します。

今回の学習会では、災害を教訓に日常から顔が見える関係作りと、地元住民・行政・外部ボランティアの三者が連携した支援に、地域住民も防災力を高めるために参画した、北海道胆振東部地震で被害に遭った厚真町の2年間の軌跡から、日常からの支援関係の構築や住民主体の減災の仕組みを学びます。

◎ゲスト◎ 村上 朋子 さん



2018年に発生した北海道胆振東部地震で、災害ボランティアセンターのニーズ・マッチング班、生活支援相談員統括業務、委託型地域包括支援センター管理者兼地域支え合いセンター主幹として4年4か月社会福祉協議会で勤務。

現在は退職し、任意団体「つむぎ」の代表として住民主体の生きがい活動や地域づくり、社協の地域福祉活動を住民側からサポートしている。



オンライン開催

参加
無料

2021年8月6日(金) 18:00-20:00

実施方法 Zoom ミーティング (オンライン)

【定員】 定員30名 (申込順)

- ・参加するには、インターネットに接続できる環境 (パソコン、またはスマートフォンなど) が必要です。
- ・参加者には、参加するための URL 等をメールでお送りいたします。

【申込】 電話、メール、またはチラシ裏面の申込用紙を FAX でお送りください。

【対象】 千代田区のボランティアグループ・団体や企業・機関に所属されている方など

※ちよだモデルネットワーク (通称 CMN) は、千代田区内の企業・団体・施設・大学などの有志メンバーで構成されるネットワークの名称です。災害時・平時を問わず区内で顔の見える関係を築いています。

■申込・問合せ ちよだボランティアセンター

〒102-0074 千代田区九段南1-6-10 かがやきプラザ4階

TEL : 03-6265-6522 FAX : 03-3265-1902

E-Mail : volunteer@chiyoda-cosw.jp

ちよだモデルネットワーク(CMN)とは？

平時・災害時を問わず、地域内連携の形です。
災害時の支援の仕組みを考えていくためには平時から区内の各機関が協力しあえるようなネットワークづくりに取り組んでいく必要があるという思いのもと、災害学習会に参加したメンバーで幹事会を立ち上げました。
平時から顔が見える関係を作り、時には幹事間で協働して事業を展開したり、災害時の対応について、共に考え仕組みを作っていく仲間を増やし、「防災・減災」をキーワードに行動指針（案）を作成に取り組むほか、幹事会に参画するメンバーを増やす取組を行っています。

ちよだモデルネットワーク主催 災害学習会 参加申込書

ご所属（事業所名）	
参加者氏名	
連絡先	住所 〒 電話番号 E-mail

参加の上での注意

- 参加者には、参加するためのログインパスワードをメールでお送りいたします。
Eメールアドレスを必ず読みやすい字で記入してください。
- 学習会は、「ZOOM ミーティング」で行います。指定の時間5分前までには、ログインをしてください。
- 資料等は、事前に郵送でお送りいたします。
- 参加された方は、アンケートのご協力をお願いいたします。学習会終了後に、ちよだボランティアセンターまでメール（volunteer@chiyoda-cosw.jp）かFAX（03-3265-1902）でお送りください。